

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-162	15-003 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Triparental families: a new genetic-epidemiological design applied to drug abuse, alcohol use disorders, and criminal behavior in a Swedish national sample. スウェーデンにおける薬物乱用、アルコール乱用および犯罪行動に遺伝要因および環境要因がおよぼす影響：再婚家族における検討</p>		
執筆者		
Kendler KS, Ohlsson H, Sundquist J, Sundquist K.		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2015 Jun;172(6):553-60. doi: 10.1176/appi.ajp.2014.14091127.		
キーワード		PMID
薬物乱用、アルコール乱用、犯罪行動、遺伝要因、環境要因		25698436
要 旨		
<p>目的： 薬物乱用、アルコール乱用および犯罪行動に遺伝要因および環境要因がおよぼす影響を検討した。</p> <p>方法： スウェーデンで 1960-1990 年に生まれた 41,360 名を対象として、薬物乱用、アルコール乱用および犯罪行動の頻度を算出した。また、生物学的母親、生物学的父親および継父のいる再婚家族を対象として、遺伝要因および環境要因がおよぼす影響を検討した。</p> <p>結果： 薬物乱用において、生物学的母親における薬物乱用の既往の相対危険は 2.80、生物学的父親における薬物乱用の既往の相対危険は 2.45、継父における薬物乱用の既往の相対危険は 1.99 であった。同様の関連がアルコール乱用（生物学的母親 2.23、生物学的父親 1.84、継父 1.27）および犯罪行動（生物学的母親 1.55、生物学的父親 1.46、継父 1.30）においてもみられた。薬物乱用、アルコール乱用および犯罪行動をまとめて解析したところ、問題行動の世代間伝達において、生物学的母親の影響が最も強く、生物学的父親の影響が中等度であり、継父の影響が最も弱かった。非再婚家族および継母のいる再婚家族における検討でも同様の結果が得られた。</p> <p>結論： 薬物乱用、アルコール乱用および犯罪行動には、遺伝要因および環境要因の両者が関連しているが、遺伝要因の影響の方が大きいことが示唆された。</p>		